

## カルガモ (カモ科) 全長60.5cm

カルガモは全国で繁殖し、沼や田んぼ、畦道などでよく見かける野鳥です。

あまりにも普通に生息していることから気にも留めなくなった野鳥ですが、どうしてこんなところにいるの？と、はっとした事がありました。

2017年5月、雄物川に架かる刈和野橋で繁殖するチョウゲンボウを観察に行った時です。橋の下流河川敷に生える、ニセアカシアの地上5~6メートルほどの高さに枯れ枝を積み重ねた巣が見つかりました。



刈和野橋下流に生えるニセアカシア。上部に枝を積み重ねた小さな巣が見えます。

繁殖が終わり使わなくなったカラスの空き巣のようです。ところが、この巣の中に何者かが入っていました。左岸堤防上からの観察では距離もあり身体の一部しか見えませんが、カラスでないことは確かです。

クチバシの形と配色からカルガモと分かりました。橋の上からそっと眺めると、姿勢を低くして身構えましたが飛び立つ様子はありません。私を警戒しているのであれば、直ぐに飛び去ってしまうはずです。巣の中には何か守るべきものがあるからでしょうか。もしかして産卵しているのではないかと推測しました。



巣に入っていたのはカラスではありません。



間違いなくカルガモです。

畑や田んぼの草むらなど、地上に巣をつくる習性のカルガモ。樹木に巣を作ることなど聞いたこともなく、見たこともありません。にわかには信じがたい事です。

しかし、他人の空き巣であってもしっかりと中に入り込んで動こうとしないカルガモさん。ここを自分の巣と決め込んだのでしょうか。これから産卵するのか、すでに抱卵状態になっているのかわかりませんが、今後の展開が楽しみです。



こちらを気にしているが、飛び立つ様子はありません。



なぜ、どうしてここにいるの？  
試しに入って見たら離れられなかった？

毎日通いながら、今後の行動を撮影することにしました。

翌日はどうしても都合がつかなく、2日目の朝に眺めたら巣の中には誰もいません。しばらく待っていてもカルガモは現れることがありませんでした。橋から巣を覗きこんでも、窪んだ底までは見えません。

私の推測に過ぎませんが、カルガモが一時巣を離れた間隙をカラスに狙われたのではないかと思われます。元々カラスが作った巣なので、追い払われてもしかたありません。

カルガモが樹木に作られた巣に入った、全国初？の珍しい出来事に遭遇できました。